（十九日夕刊）

休刊 大祭日 第一 第三日曜
定價 一ケ月 二十錢 郵稅 十五錢
廣告料 豎行六十錢 指定廿錢 增
發行人兼印刷人 藤沼鶴輔
福島縣平町田町十六番地
發行所 磐城新聞社
電話五六四番

日本一の折紙つく 勿來信用組合

二十余年の歴史を持つ 役員選擧を行ふ

明治四十三年僅か二十一名の組合員を以て生産を挙げ窪田信用組合は僅に組合長安島太次郎氏宅の一室にあり組合長の努力組合員の活動は遂年加入者の増加内容の完備と共に大正二年二月には事務所を窪田本町中央に移轉進出し同三年九月には縣聯合會に加入して四年四月産業組合福島支會長より盛賞なる

成績を以て表彰さる

更に同五年五月には産業組合中央會より表彰されて一躍全國に其優良なるを知られ大正七年には農業倉庫の建設竣工し今や創立廿箇年五百余名の組合員を有し六千九百六十七圓餘の準備金、八百二十四圓餘の特別積立金、六百七十二圓の倉庫積立金の外に剰餘金八百二十九圓餘を以て去る十一日總代會に組合名さへ勿來信用購買組合と改め決算報告や役員選擧を開いたが此名譽ある組合長を廿箇年一日の如く勤續した安島太次郎氏は後進を慮りて辭し役員選擧の結果は既報の如く

多額納稅者四名も理事にあり

組合長も專務理事として十二箇年間安島氏を補佐した小松清三氏が當選したので組合長たりし安島氏は組合仲長の前途非常に期待され其まゝ茨城縣磯原町に移轉した理由は被告人大内は昨年十月同町十五丁目岩崎吾造（三七）を保證人として横山より一百圓を借受け其のまゝ茨城縣磯原町に移轉したので岩崎に金の支拂ひ方を迫ると保證人になつた覺へがないと態よく跳付けられたので今更ら欺かれた事を知り告訴に及んだものである

佑賢學舍卒業生の氏名

平町私立磐城佑賢學舍の卒業式は來る二十日擧行されるが卒業生氏名左の如し

△本科第拾七回卒業生（五十音順） 阿部義長、稲葉勝藏、岡本良太郎、大平正男、小野原、小川善佐、上遠野丈夫、上遠野一枝、木村忠男、菊地健英、草野政雄、熊澤左司、草野止三、櫛田弘、小泉勝夫、小林武義、小泉高正、佐藤勝、酒井敏雄、下河邊仙二郎、下藤正、白土光一、鈴木將夫、高橋兵吉、永山一三、長沼英夫、新妻忠、箱崎孝吉、林忠行、滿山喜一郎、村山三男、山本宗太郎、山野邊勝男、吉田耕耕三、渡邊新吉、渡邊富賢、渡邊辰雄、明智竹代、大友ミヤ子、大平トラ、明智竹代、金澤サクヨ、木村イチノ、下河邊マサ子、奥井常子、小野靜枝、平樣因たり

△一白 喜び事の集まり來る日新しき事を企つる尤も吉

△二黑 己が力を量らず大事を企つれば失敗す

△三碧 危險の伴ひ易き注意日外に出て躓き易し

△四綠 本分を守るに忠實なるべし

△五黄 吉日たるべし

△六白 内外共に淺瀬と思つて渡れば深みに陷り易き日

△七赤 辛苦の汗も面白からず焦れば焦るの日

△八白 暗雲に閉ざされ悲の人の覺にあらうとも、血潮をきれいに拭つて彦九郎はそのまゝあとをも見ずその無禮の一言に對してゝはや答へるのは厭ちや、よしこの幕吏の小使ひを無禮討ちいたしたことを以て罪するといふなら罪するものか、店先に出てゐた番頭はされいな京言葉で之を迎へました。

「うむ。幸兵衛は在宅か」

いつもと少しも變らぬ語調で、さう訊ねながら、奥へ通りました。

「たゝこれはお歸りなさいます。茶の間を通りかゝつたとき主人の幸兵衛は之を見かけてかう言葉をかけました。

「さぞ、お寒かつたでございませう。もう十月も殊に夜分のことでございますから……さあ、どうぞあなたはやがて美果を結ぶべし撓まし。

「たとへこの身に高辻御昵せず輕くさう呟くと、刀の

最早最前の如き驚きは見

紙上相談

父は酒に亡び

老祖母は病床に

私は十九歳で奉公中の者ですが十二の時母が死去したので、當年七十六歳になつた祖母が、私共同胞五人を育てゝくれました。昨今は姉と妹とは工場に通ひ、私と弟とは奉公し末の妹は通學中なのですが父は酒ばかり飲み親戚の者が仕事を世話しても出やうともせぬのみか、却て何のかのと惡口するといふ狀態で、酒代の爲に絶えず姉や妹をせびります過日祖母を慰め旁一日の暇を得て歸りますと、二月の末の如き五錢の白銅一ケさへなかつたものとのことでした、さういふ處へ祖母は神經痛に惱んで居るのです、聞きますと祖母は毎朝這ひずりながら五時から朝の仕度をするといふのに、父は八時過ぎまでも平氣で寢て居り、何かと云へば勝手な熱を吹いて居るといふ有樣で、私達はどうしたらよいか一人で苦しんで居ます。如何

（正歳）

御心中お察し申ます、肝腎の父上はそんな風では今日の狀態さへ永くは續きざうに思へません、さればお先づあなたと姉さんと上の妹さんの三位が

会合の都合をつけて篤と相談し、その上御親戚

なたかに協議し、父上の酒氣のない時に三人でよく〳〵御意見なさい、それは高齢なるに病氣であり、毎朝無理をせねばならぬ祖母さんは、到底そのまゝに過ごすことは出來ず、に氣の毒このよりなべあれば本を讀みふけて居るのです、どう考へても今の世の中の中はみづしゝ勉强せねば駄目だと思ひます、まだ主人に話も致しませぬ、如何したら樂みの一部でも達することが出來ませう

（てい）

如何なる家に奉公して居らるゝのか、また御主人

にせられんことを希望します。

奉公中の一女

夜學へ通へたい

一昨年の春まで高女に通學して居たのですが、家の都合で三年の時退學し、奉公に出て憑ますが、昨今つく〳〵學校時代が戀しく暇さへあれば本を讀みふけて居るのです、どう考へても今の世の中の中はみづしゝ勉强せねば駄目だと思ひますので、夜學へと望んで居ますが、まだ主人に話も致しませぬ、如何したら樂みの一部でも達することが出來ませう

（てい）

如何なる家に奉公して居らるゝのか、また御主人

講談 幕末奇傑高山彦九郎

中西洋々作 有馬長泰畫

躍る銀蛇（四）

「頼まぬ」

彦九郎は、きつぱりと云ひきりました。

「なつ？」

その語氣の鋭さに佐三郎も思はずぎよつとし乍ら反問しました

「たかが同心すれであり乍ら、いやしくも堂上のお人ひました

「他に話しがなくばこれにて失禮いたす。御免あれ」

夜目にもせまる鬼氣をそさう云ひすてゝ悠々の歩み、月影に僅かに照らされて見える橋のたもとを、歩み去らうとした時でした

よせばよいものを

「浪人！御用だつ！」

張帛、叫ひ、矢庭に背後に迫つた佐三郎が得意の捕縄、はづすと見るやぱつと宙に圓を描いて、彦九郎の体を縛さうといたしましたのすでに、それあるを豫期してゐた彦九郎です。

「……」

無言のまゝ体をかはすやいなや怒りにもふ心は劍を横にはらつて

「えいつ！」

大刀先のねらひはあやまたず、背後に迫つてゐた佐三郎の胸部をはすに左から右へ見事斬り下げて了ひました

「たゝ、罪なことを致じたり下さいまし。唯今すぐお部屋の方へ火を通させますから……」

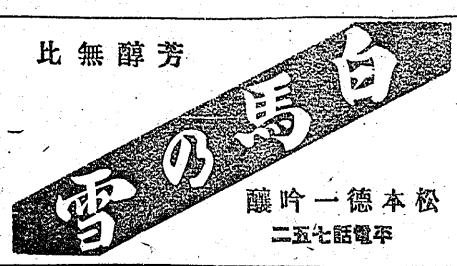
「うむ、辱けない」

彦九郎は流石に二人の役人を行つたあとですからともすれば滅入らうとする心を、やつともちこたへながら幸兵衛と對して長火鉢をはさみました

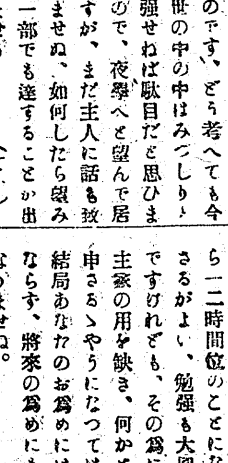
「早いものだなの」

その恐しい沈默から逃れようとするように述懐めいたた口調になつて彦九郎は云びました

「京に出てから、これでもう滿三年になる！」



芳醇無比
松本德一吟釀
平電話七五二

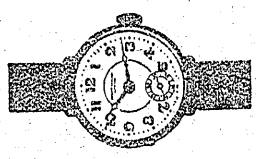


すらが涙
發賣元
△染色力……確實
△使用法……頗る簡便
△價格……低廉
定價……小瓶二五 中瓶三五 大瓶五〇
平町五丁目角
大販賣店 山野邊藥局

愈々來る！
木村重友一行
小虎丸特別出演
聚樂館
電話四七〇番

生徒募集
一、本科生 一百人
一、普通科 第一學年 百五十人
第二學年 若干人
一、願書提出期限 四月六日
右募集す
磐城佑賢學舍
電話七一〇番

◇三月十九日 二十日（二日間）短期特別大興行
テスチマ演主（モンチニエヂオの原作）大作 原名 ツルガルタ社十年一度の
女ユニヴアーサルニ百萬弗大映畫 ツリガマ・タツシイフ・ヤシツイフ 滿熱嬢
ソドスロトルクア
平館 料塲入 普通三〇 一等五〇 特等七〇 高級常設

時計
貴金屬
眼鏡類

良品廉價…修理大々勉强…確實迅速に
金時堂
高橋時計店
平町土橋通り

時は金なり…示時正確に…金時堂へ

營業種目
内地材
建築材 木材各種、羽柄材各種
鑛山用坑木 其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達
請負 其他
佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

特賣!!
たひら正宗
福島縣清酒品評會一等賞受領
春同優等賞受領
醤油醸造元
鹽屋
山崎合名會社
電話一〇番

新築落成
耳、鼻、咽喉科
氣管食道科（專門）
平町南町（舊診療所向電一七〇番）
大和田醫院
大和田郡司
自炊の便あり

サロンのバーには
何時も生ビールがあります
毎日變つた佛蘭西料理の御獻立をして御座います
ドーゾ御試食を……
田町松月堂隣り
美味で評判の きもちよい サロン
電話三五二番
男、女給仕人數名募集

平町紺屋町
吉田眼科醫院

取引所の設置 反對運動にせぬ

白銀多數區民は 双手を擧げて歡迎

平町の魚屋驅逐たる石城鮮魚商組合が白銀町元平劇場跡に鮮魚共同取引所を設置することゝなり建物工事も進渉し來る二十日より取引を開始することゝなるや地元區民の一部は衛生保安の爲め猛然と反對の聲を揚げ平署當局に陳情する等の行動に出でるや一方多數區民は白銀町繁榮の爲め同取引所の促進運動を起し

茲に兩者 睨み合ひの容となつた、即ち取引所の設置を熱望する多數區民等は反對運動の爲め荒井平署長を訪問した絲川衛生區長高木青年分團長等の越權を糺彈し區民の讃成調印を求めた上積極的運動に移るべく多數區民の態度は極めて硬化して來たが反對運動の主謀者と見られてゐた高木青年分團長は

反對運動を主謀した如誤解されたのは迷惑千萬である、私は素より青年分團長の肩書を以て荒井署長を訪問したのではない、共同取引所の設備が完全せぬとすれば衛生上芳しくないから果して何の程度の設備をするのか署長に聞いておく必要があると考へ偶々衛生區長の絲川三郎氏と話し合ひから一個の區民として署長に意見を述べただけのことで多數區民の意志に反し取引所の設備を妨害する考へなど毫頭ないから誤解せぬ樣に」云々と言ふにありて今や白銀町區民としては同取引所設置に反對するもの無く地元繁榮の爲め一日も早く始業を熱望してゐる模樣であるが工事中の取引所も十九日中に竣工の豫定で明二十日盤大は開業式を行ふと

高木分團長 辭職

誤解の負責

白銀町青年分團長高木喬氏は鮮魚共同取引所設置に關し個人として荒井署長を訪問したことが一部の誤解を招き青年分團長の名を以て多數區民の意志に反する運動を然かも專斷になしたことは不埒であると一部區民から態度を批難されるに至つたことは遺憾であるとなし今十九日正式に分團長辭職を申出てた

社會民衆黨 應援

各地で演說會

社會民衆黨磐城支部では平町の鮮魚共同取引所問題につき協議の結果同取引所の設置は一般無產魚行商人の福利を增すものであるから飽くまで之れを援助し初期の目的を達成せしむることとなり同取引所設置應援の目的で久の濱、四倉、平、植田、小名濱、江名、豊間各地で演說會を開くと

四倉大敷網を 角網に變更 許可

既得檢者保護の爲め 大事を取る當局

既報—四倉大敷網問題に就き縣は既許可權を侵害するのをそれから不許可方針を決したを知れる四つ倉漁業組合の狼狽は一方ならず、既に坂本氏とは內々賃貸契約をなし材料一切を運搬し之が既仟認可方申請してある今日として如何にとも仕方なく四つ倉漁業組合は去る十八日同町本町(九)は去る十八日同町本町五十嵐正一郎氏に對し許可方申請を通行郵便貯金通帳を

通帳を拾得

きのう四倉町で

富岡君の爲めに (下)

——不具者の立場からを讀みて——

大阪にて 長岡 加藤治

米國の文豪マークツウインをして「十九世紀に於て世界の人々の耳目を引き且つ永く其記憶に殘る人物はナポレオンとレンケラーである」と言はしめた盲で聾で啞のヘンケラー女史かあるけれ共盲たる事も兼てたる人であるから聾者とのみは言はれぬ。

然らば何故聾者に人物が乏しいかと言ふに勿論聾者は先天的な遺傳—即ち血族結婚、大酒、梅毒等より來るものと、後天的—腦膜炎、腦打撲、痲痺、膨充血、腦震盪等より來るもので單一聾であるのみならず腦に多大な影響を及ぼしてゐるからである。又も一つは完全な教育機關の少ないのによるものである。

富岡君が普通小學校に通學して勉强したと言つてゐるが聾啞者として普通兒童と机を並べて教育しやうと言ふのがそもそも〳〵の無理である。

盲學校は全國に八十餘校ある、その中、所謂盲啞學校と言ふのは五十餘校、聾啞者のためのみの學校は十餘校に過ぎぬ。その中で最も有名なのは古川太四郎先生が日本最初の盲啞教育に先鞭をつけて起した京都市立聾啞學校、名古屋市立盲啞學校、滋賀縣立聾口語學校、大阪市立聾啞學校、大阪ろう口語學校等である。

盲人には點字と言ふのがあつて讀書の便は晴眼者と殆ど同じであるがろう啞者には點字書はろう啞者には厄介なる限られた點字書を暗記するまで讀破するに比しろう啞者には書籍の多くあるにもかゝはらず眼界に展開するサムシングにさまたげられ心が亂れ統一した讀書は不可能の狀態にある。故に讀書はろう啞者には厄介なる文部省が昨年以來盲人のための點字教科書とろう啞者のための色刷教科書を編纂

耳より來る盲人の知識に比しろう者には讀書との他なるものにして繪或は活動寫眞を見て了解する程度に比べ遙に遜色なるものゝ如く見られてゐる

呼びかけてゐるが私も同感である。然し現在の制度から押してろう啞學校の培加はむづかしい。假令出來得たとしても現在では增設の必要はないと思ふ。入學難の普通學校に對しこの種の學校は常に生徒募集にあくせくはらはたらからである。むしろ國庫並に慈善實業家によつて不過なる人々のため學資給額負擔を斷行する事である。又富岡君がその友人より力づけられたやうに個人の丈け幸福と言はなければならぬが全然外界に無關心なろう啞者を見る毎に私は同情の念禁ずる事が出來ない

富岡君に教育家に政治家に宗教家に又社會改良家に

耳より來る盲人の知識に比しろう者には讀書との他なるものみに限られた知識のみ又盲人の自由に會話出來得るはむづかしい。假令出來得たとしても現在では增設の必要はないと思ふ。入學難の普通學校に對しこの種の學校は常に生徒募集にあくせくはらはたらからである。むしろ國庫並に慈善實業家によつて不過なる人々のため學資給額負擔を斷行する事である。又富岡君がその友人より力づけられたやうに個人の丈け幸福と言はなければならぬが全然外界に無關心なろう啞者を見る毎に私は同情の念禁ずる事が出來ない

富岡君に教育家に政治家に宗教家に又社會改良家に提言しつゝある事は喜ばしい事である。

褒められ通しの 平驛の親切週間

今後も此の意氣で 驛長喜んで語る

平驛の親切週間は十七日に終了したが各係共非常な緊張を以つて臨んだので期間中は全く事故を起さぬのみか人に物に親切の趣旨が徹底し三箇所に設けられた投書箱には一般人から申告が二十點に達し目下鐵道局で審査中であるが申告の內容

(親切週間の目的は驛從業員に刺戟を與へ日常人や物に對し親切の觀念を喚起せしむるにあつて此の意義を徹底せしむる爲め申告箱を三箇所に設けた從來は驛係員の批難攻擊が大部分りましたが今度はそんなものが見られなかつた時代が進步して來たにも依りさせうが驛員の緊張にも依る事です」

諸橋翁逝去

十八日午後八時遂ひに 葬儀は二十一日

先代久太郎翁の長男に生れ弱冠家督を相續し剝苦精勵以て家運の隆昌に努めて遂に大釜屋商店の盤石の基礎を築き上げた一面出來社會公共に意を注ぎ各種事業に盡瘁し明治三十一年推されて平町會議員に當選せるを初め所得稅調査委員、三十三年郡會議員となり更ら平町整理組合長、宅地價格調査委員となり本縣多額納稅者として專心公共慈善の功績枚擧に遑なく地方の功勞者として敬慕さる、人格高潔にして識見雄大大局を達觀する明あり後進の指導誘掖に努め地方殖產興業の開拓を企劃し各銀行會社の重役となり地方振興への貢獻甚大にして殆ほ將來に俟つ所多く今回の仆は地方民から非常に惜まれる(寫眞は諸橋翁)

平郵便局

移轉は八月頃

平町郵便局は工費約二十萬圓を以て工事中であつたが外觀は殆ど完成を見、八分通りは竣工したので今月下旬には最も難關な電話工事も出來あがる筈で七月中旬か八月上旬には新廳舍に移轉する豫定であると

平上水道の 起債許可

委員一行歸る

幾度か好轉を傳へられつゝも遂ひに半ケ年を經過し年度替はりも殘す處旬日となつたに拘らず未だに解決を見ずにある問題の平町水道擴張工費二十萬圓の起債認可運動に就いては既報の如く各委員が山內地方課長小柳知事比佐代議士と同道し川本流に放流さるゝ筈で約日午前十時半ころ平町魚市場附近にて中島桑島半澤の三刑事が協力逮捕取調べた結果右は伊達郡小島村生れ當時石城郡赤井村西小川福島炭礦五長屋佐藤今朝吉(五八)で賍品は娘の宅に隱匿してあつたことを自白した

町有地を無斷で 使用する不埒者

四倉町當局憤慨

石城郡四倉町では町有地である同町海岸の砂漠地を無斷使用し中には建物を建造する者等もあるので同町では町有地使用について嚴重取締る事となり建物は直に取除く樣注意を與へたが未だに取除かず町當局の注意も空吹く風と聞き流してゐるので、町當局としてはこの横着な態度に憤慨し最後の手段をとるものとみられてゐるが此の町有地無斷使用者は同町における相當有力な地位にあり名譽職を持つてゐる某々等なので町當局でも簡單に取締まる事が出來ずゐるのであるが、町有地を無斷使用し恬として愧じないこの某等を極度に非難してゐる

春 若芽も萌え出て 松ケ岡の春

墓詣りに寺々賑ふ

暑い寒いも彼岸まで——陰鬱な鉛色の雲が、そよ〳〵と流れ寄る東風に吹きなされて居るが急々來る二十日午前十時ころ同孵化場に山崎組合長や下山田會計其他役員立合山田川を經て鮟鱇たゝばかりに各茶屋では「いらつしやいまし、お休みなさい」と浮きたつた愛嬌をふりまいてゐるのだ、

春の姿を

遠く南から運んで來た。十八日お彼岸入り——曇りかと思はれた空も朝來からくつきりと晴れ渡つて彌や更に春の喜びを感じさせ松ケ岡公園は彼岸詣りの序でがてら杖を引く即興詩人も散見されるのだ、春！春！春！春を喜ぶ聲は巷から郊外にあふれてゐる。性源寺やその他の寺々は老幼男女が香華を手に賑たつて賑はつた

春の情緒

はお墓參りの姿まで柔かせる、この人々の懷を狙つて書入れ時がもう公園廣場の櫻が笑ひ出してもいゝとの風情、もう春は足もとまで訪れて來たのだ。

鮟川鮭放流

來る二十日に行ふ

石城郡鮟川鮭繁殖組合山田村孵化場にて昨年晩秋より孵化繁殖に盡瘁した鮭は約二寸に達し頗る成績良好で水溫も昨今元氣よく遊泳

平地方に 降雹

農作物に無害

去る八日午後三時二十分頃から石城郡平地方に大雷起り約四十五分間に亘り小豆大の降雹あり一面銀世界となつたが農作物には被害はなかつた

拾得品を奪ひ 毆つて逃走

平署に捕はる

石城郡赤井村高萩小玉川水力發電所工事細村飯塚北木朝鮮人中島五郎(二〇)は十七日午前七時五十分ころ平驛で列車待合せ中木綿竪縞給一枚外雜品三點價額三圓五十錢を新聞紙に包み腰掛の上に置いたのを何者かに盜取されたので捜査中年齡五十歲位の魚屋風の男が所持品は出來あがる筈で七月中旬か八月上旬には新廳舍に移轉する豫定であると

平郵便局

移轉は八月頃

平町郵便局は工費約二十萬圓を以て工事中であつたが外觀は殆ど完成を見、八分通りは竣工したので今月下旬には最も難關な電話工事も出來あがる筈で七月中旬か八月上旬には新廳舍に移轉する豫定であると

春の情緒

はお墓參りの姿まで柔かせる、この人々の懷を狙つて書入れ時が

父久太郎儀永々病氣の處療養不相叫三月十八日午後八時死去仕り候間此段御通知に代へ謹告仕り候

追而來る二十一日午後一時自宅出棺平町九品寺に於て告別式相營申可候

昭和五年三月十九日

男 諸橋守次
諸橋元三郎
諸橋久四郎
阿部唯次郎
馬目得三郎
諸橋敬一郎
坂本隆藏
馬目瑞子
鈴木堅助
山崎與三郎

親戚總代

友人總代

平町南町 上田醫院 電話一二九番

平町紺屋町 藤沼醫院 電話五〇七番

謹啓春陽の候、益々御淸祥の段奉大賀候、從來小生等開業中は多大の御後援に預かり有難く御禮申上候、就て今般都合に依り新妻眼科醫院と明雲堂眼科醫院とを合同仕り明雲堂眼科醫院に於て診療に從事仕るべく候へば從前の如く御後援に預り度く奉懇願候

昭和五年三月十七日

明雲堂眼科醫院 吉田芳太郎
新妻眼科醫院 新妻幸之助

廣告

第三十一回 生徒募集

△募集人員 八十名

△修業年限 兩科を通じて一ヶ年(高等小學校卒業者しくは之と同等の學力あるもの(無試驗入學を許す))

△入學資格

△願書提出期間は四月八日迄

△寄宿は自炊の便あり

平町一丁目 石城產科婦看護婦學校 校長 鷹崎千代 電話(三七五番)